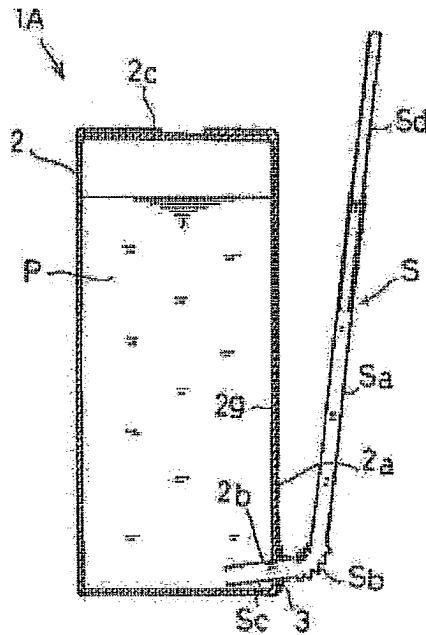


BEVERAGE CONTAINER WITH STRAW AND BEVERAGE PRODUCT HAVING BEVERAGE FILLED IN THIS CONTAINER**Publication number:** JP2001072046 (A)**Publication date:** 2001-03-21**Inventor(s):** NAGATA HIDENORI +**Applicant(s):** NAGATA HIDENORI +**Classification:****- international:** A47G21/18; B65D5/44; B65D77/28; A47G21/00; B65D5/44; B65D77/24; (IPC1-7): A47G21/18; B65D5/44; B65D77/28**- European:** B65D77/28**Application number:** JP19990249676 19990903**Priority number(s):** JP19990249676 19990903**Abstract of JP 2001072046 (A)**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a beverage container having a straw therein and beverage product having beverage filled in this beverage container in which beverage in a container main body can be drunk only through removing a cap at a released extremity end of a straw or peeling off a covering film without inserting a straw S into the beverage container main body, beverage can be prevented from being blown or overflowed through the straw, the container can be stored in sanitary state and its filling and leakage can be prevented only through re-covering of the cap for the straw when the beverage is finished in drinking in the midway part of it. **SOLUTION:** A straw S of which attitude is kept in a vertical direction is protruded into and supported at a side wall of a beverage container main body 2 formed by water-proof paper or synthetic resin where beverage P such as tea such as Japanese tea, coffee, milk, juice and mineral water or the like is filled, and the circumference of the straw S protruded into the container is processed with water stopping.



Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-72046

(P2001-72046A)

(43)公開日 平成13年3月21日 (2001.3.21)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコト^{*}(参考)

B 6 5 D 5/44

B 6 5 D 5/44

U 3 B 1 1 5

A 4 7 G 21/18

A 4 7 G 21/18

3 E 0 6 0

B 6 5 D 77/28

B 6 5 D 77/28

3 E 0 6 7

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全8頁)

(21)出願番号

特願平11-249676

(71)出願人 599125076

永田 秀範

大阪府阪南市和泉鳥取963-5

(22)出願日 平成11年9月3日 (1999.9.3)

(72)発明者 永田 秀範

大阪府阪南市和泉鳥取963-5

(74)代理人 100084630

弁理士 澤 喜代治

Fターム(参考) 3B115 AA17 BA18

3E060 AA03 AB03 BC04 CF10 CF16

DA17 DA21 EA03 EA13

3E067 AA03 AB26 BA06A BB03A

BB14A BC06A CA07 EA40

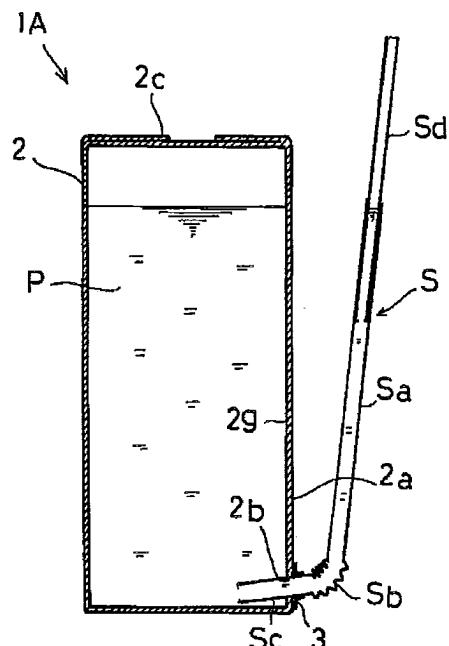
EB27 EB30 EE24 FA01 FC01

(54)【発明の名称】ストロー付き飲料用容器及びこの容器内に飲料が充填された飲料品

(57)【要約】

【目的】本発明は、ストローSを飲料容器本体に差し込むことなく、ストローの開放先端部のキャップを外したり、被覆フィルムを剥がしたりするだけで、容器本体内的に飲料を飲むことができ、しかもストローから飲料が吹き出したり溢れ出したりするようなことを防ぎ、途中まで飲み終えたときにストローのキャップを再び被せるだけで、衛生的に保存でき、しかも倒し溢れも防ぐことができるストロー付き飲料用容器及び、この飲料容器に飲料を充填した飲料品を提供することを目的とする。

【解決手段】日本茶などのお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料Pが充填される耐水性の紙又は合成樹脂で形成された飲料容器本体2の側壁内に、上下方向に姿勢させたストローSを突入させて支持し、このストローSの突入部分の周りを止水処理した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 お茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料が充填される耐水性の紙又は合成樹脂で形成された飲料容器本体の側壁内に、上下方向に姿勢させたストローの基端が連通或いは突入して支持されており、しかもこのストローの連通・突入箇所の周りが止水処理されていることを特徴とするストロー付き飲料容器。

【請求項2】 ストローの連通或いは突入の位置が飲料容器本体の側壁下部内である請求項1に記載のストロー付き飲料容器。

【請求項3】 ストローの一部箇所がジャバラ状に形成されている請求項1又は2に記載のストロー付き飲料容器。

【請求項4】 使用前のストローの開放端にキャップが取り付けられている請求項1ないし3のいずれか1項に記載のストロー付き飲料容器。

【請求項5】 使用前のストローが上下方向に向けられて、シール又はフィルムで飲料容器本体の側壁に仮止めされ、あるいはフィルムで飲料容器本体と共に真空包装されている請求項1ないし4のいずれか1項に記載のストロー付き飲料容器。

【請求項6】 請求項1ないし5のいずれか1項に記載のストロー付き飲料用容器内にお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料が充填されている飲料品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、日本茶などのお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料を充填した耐水性の紙又は合成樹脂で形成されたストロー付き飲料容器に関し、さらに詳しくは使用前の状態からストローの基端が容器本体内に連通或いは突入しているストロー付き飲料容器及びこの容器内に飲料が充填された飲料品に関する。

【0002】

【従来の技術】日本茶などのお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料を充填した耐水性の紙を主材料とするストロー付き飲料容器は、現在、高さが50～300mm程度の小容器の分野で多く用いられており、この種のストロー付き飲料容器のストローは、別体としてストロー大のフィルム袋に入れられて飲料容器本体の側壁に貼り付けられたり、或いは飲料容器本体の側壁に貼り付けた状態で、外装フィルムで覆うように包装されている。

【0003】又、このような飲料容器においてその本体の上部には、ストローを突入させる開孔が開設されており、未使用状態において、この開孔はシール又はアルミフィルムで封止されている。

【0004】そして、その使用時つまり飲用時には、先

ず、ストローを飲料容器本体から取り外し、次に、飲料容器本体の上部に貼着されているシールを剥がしてストローを突入させる開孔を露出させ、この開孔内にストローを突入させたり、或いは開孔を封止しているアルミフィルムをストローで突き破ってストローを突入させたりする。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述したように紙製のストロー付き飲料容器は罐容器のように強固なものではなく、強く指先で押さえるように持つと、多少凹む。とくに前述したようなストローを開孔内に突入させるときには、飲料容器を持っている指先に力が加わり易くなつて、ストローを開孔内に突入させたときに、容器内の飲料がストローを通じて溢れ出て、手や衣服を濡らしたり、汚すことがある。このため、ストローを開孔内に突入させるとき、容器を指先で押え過ぎないように、注意する必要があり、煩わしさが生じたり、子供や老人はその手加減ができないことがあり、このため、容器内の飲料がストローを通じて溢れ出て、手や衣服を濡らしたり、汚すことが多々あった。

【0006】本発明者自らが、このような失敗を度々経験してきたが、自分以外にもこのような経験をしている人が多いことを知り、このような問題を如何にして解消すべきか、容器の構造や容器とストローとの関係から検討した結果、ついに本発明を完成するに至ったものである。

【0007】而して、本発明の目的は、日本茶などのお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料を充填する耐水性の紙や合成樹脂で形成された飲料容器本体の側壁に、工場での製造段階でストローを上下方向に姿勢させた状態で連通或いは突入、支持させ、しかもこのストローの連通或いは突入させた部分の周りを密閉、止水処理をもたせたものを製造し、この飲料容器本体内に飲料を充填した後、ストローの開放先端部のキャップや被覆フィルムを外したり、剥がしたりするだけで、容器内の飲料を飲むことができる上、従来のようにストローを容器の開孔内に突入させると、容器を指先で押え過ぎてストローから飲料が吹き出したり、溢れ出したりするようなことが無く、途中まで飲み終えたときにはストローのキャップを再び被せるだけで、衛生的に保存できるのであり、加えて、倒し溢れも防ぐことができる極めて有用なストロー付き飲料用容器を提供することにある。

【0008】また、本発明においては、このような容器内に日本茶などのお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料が充填された飲料品を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】以上の目的を達成するために、本発明に係るストロー付き飲料用容器は、日本茶

などのお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料が充填される耐水性の紙又は合成樹脂で形成された飲料容器本体の側壁内に、上下方向に姿勢させたストローの基端が連通或いは突入して支持されており、しかもこのストローの連通或いは突入させた部分の周りが止水処理をされていることを特徴とするものである。

【0010】本発明でいうストロー付き飲料用容器は、当該飲料用容器本体の側壁内に、上下方向に姿勢させたストローの基端が連通或いは突入して支持されており、しかもこのストローの連通或いは突入させた部分の周りが止水処理をされているものをいう。

【0011】本発明で使用される飲料用容器本体は、いわゆる紙パック、牛乳パック、酒パックなどといわれているような、紙を主材料とした容器（耐水・防水処理した容器）や、紙の如き柔軟性を有する合成樹脂を主材料とするもので形成された容器、紙製や発泡スチロール製のコップ等の容器のことであり、容器自体は従来公知の容器が挙げられる。又、その形状も、特に限定されるものではないが、一般に、平面視において、矩形状、円形、三角形のものなどあらゆる形状のものが挙げられる。その容量も、特に限定されるものではないが、一般に、50～300mm程度の容量のものが挙げられる。

【0012】紙を主材料とする、耐水性の紙とは、例えば、紙の片面を合成樹脂製のフィルムで被覆したり、或いは紙の片面にアルミニウムを蒸着するなどして、防水や耐水などの加工処理がされているものなども含む、という意味である。

【0013】本発明で使用されるストローは、工場の製造段階で、このような飲料容器本体の側壁に沿って上下方向に向けられた状態で、その飲料容器本体の側壁内に連通或いは突入させてあり、しかもストローの基端を連通或いは突入させた部分の周りから飲料が滲み出ないように、ストローと飲料容器本体のストロー孔周りを止水処理がなされているものである。

【0014】ストローの基端が飲料容器本体のどの位置で連通或いは突入しているかについては、当該容器の側壁の上部、中央部、下部などあらゆる位置が対象になり、その連通或いは突入構造は、この容器に開設したストローの径大の開孔内に、当該ストローの先端を開口させたり、或いはストローの一部を突入させ、該容器の外側からこの開孔周りとストローとを防水性の封止材を用いて接着、止水処理を施した構造等が挙げられるのである。尚、この止水処理は、前述した構造に限らず、現在、公知技術の止水処理の全てが適用されている。

【0015】ところで、本発明において、ストローの基端が飲料容器本体のどの位置で連通或いは突入しているかについては前述したように特定はしていないが、その一例として、ストローの基端を飲料容器本体の側壁の下部に取り付けられ、当該容器本体の飲料の全てを飲み

易くしたものが挙げられる。

【0016】つまり、飲料容器本体の側壁の下部にストローの径大の開孔を開設し、容器外からこの開孔内にストローの基端を、連通或いは突入させて、このストローの基端を固定すると共にこの開孔周りとストローとを防水性の封止材で接着したものが挙げられる。このときに用いられるストローは、容器の側壁に沿って上下方向に向けた姿勢にしなければストローを通じて飲料が溢れ出ることから、その連通或いは突入させた部分より容器外側に位置する一部分がジャバラ状に形成されていたり、屈曲自在に形成されているものが用いられる。

【0017】このようにして飲料容器本体に取り付けられたストローは、その先端の高さが該容器の上端近くまであり、このようにすることによって、ストローの先端の開孔から飲料が溢れ出たりすることが防止される。

尚、本発明で用いられるストローは、径の異なる2本のストローを重ね入れた蛇腹状で伸縮自在な構造のものも含まれるのであり、また前述した以外の箇所が蛇腹で形成されたものも含まれるのであり、更に、容器の上端面をこえて当該上端面に沿って折り曲げられたものも含まれる。

【0018】本発明に係るストロー付き飲料用容器は、未使用状態において、このストローの先端の開口部分には、キャップ等が被せられたり、ストローの先端開口部が接着や融着によって封止されたり、更に、ストローの先端部全体をシール又はフィルムで飲料容器本体の側壁に仮止めされている。勿論、ストローの全体を飲料容器本体と共にフィルムで真空包装したものでも良い。

【0019】そして飲用時には、包装フィルムや包装シールを剥がし、次にストロー先端のキャップを取り外したり、当該先端部の接着や融着による封止箇所を切除すれば良いのである。尚、飲用中にこのキャップで蓋をしておくと、衛生的であり、しかも容器を倒したときでもストローから飲料が溢れ出たりするようなことはないので便利である。

【0020】ところで、ストローの下部の途中部分から向きを上方に変えてその姿勢を維持させるのをジャバラ部分の屈曲で行なう構造であると、ストローが倒れ易い。このためジャバラ部分の屈曲だけで行う場合には、しっかりしたストローを用いることが肝要である。腰の柔らかいストローを用いる場合には、ストローを容器の側壁に沿わせて固定する必要がある。

【0021】ストローを飲料容器本体のストロー孔で固定して止水処理を行う他の方法としては、この容器のストロー孔周りにポリオレフィンやナイロン更にEVA等の合成樹脂製の封止材で固定したり、孔付円板材を固定する等して、これら封止材や孔付円板材にストローを直接或いは取付材を介して接着する方法などが挙げられる。このように構成すると、前述した防水フィルム製の封止材を用いた場合よりも、丈夫なストロー取付構造と

なる。

【0022】本発明には、ストローの先端部を飲料容器本体の側壁の上下中央付近や上部近くで突入させたものも含まれる。このようにするとストロー全体の姿勢が安定し、一層ストローが倒れ難くなるので望ましい。しかしながら、その突入姿勢を、該容器の側壁を斜め下方にさせて、ストローの上部分が容器の横方向に長く突出させないようにすることが、箱詰め上好ましいし、ストローの折れを防ぐという観点からも、望ましい。

【0023】そして、本発明の出願人は、このようなストロー付き飲料用容器の権利範囲が、単に容器としてだけではなく、このような容器を用いた飲料品にまで及ぶように明記した。

【0024】即ち、本発明に係る飲料品においては、本発明に係るストロー付き飲料用容器内に、お茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料が充填されたものであることを特徴とする。

【0025】

【発明の実施の形態】本発明の目的及び構成は、以上の通りであり、統いて、添付図面に従って、本発明に係るストロー付き飲料用容器及び飲料品の具体的な構成を詳述する。

【0026】図1は本発明の第1実施例に係るストロー付き飲料用容器と飲料品の開封前の状態を示した斜視図であり、図2は同じく開封後の状態を示した斜視図、図3は同じく開封後の状態を示した正面断面図であり、図4はストローの取付手法と取付構造の過程を示した斜視図であり、図5はストローの取付手法と取付構造の過程を構造を示した斜視図である。

【0027】本発明の第1実施例に係るストロー付き飲料用容器（以下、本発明の第1実施例の飲料容器と略称する。）1Aは、日本茶などのお茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料が充填される飲料用容器本体2に、ストローSが組み付けられたものである。

【0028】図1乃至図3に示す実施例の飲料容器本体2は、高さ方向が長く形成された紙製のものであり、その内側面2gはフィルムによる防水加工が施されており、この飲料容器本体2にストローSを取り付けた後、上方から飲料が充填され、その後、上部が折り畳まれて蓋2cが形成されている。

【0029】この飲料容器本体2は、一般に多く使用されている高さ180mmの紙パックである。

【0030】この容器本体2の側壁の下部2aには、製造過程で、図4に示すような、ストロー径大の開孔2bが開設されている。

【0031】そしてさらに続く製造過程では、図5に示すように、この開孔2b内にストローSの下部Scを突入させて、突入させたストローS部分の周りを囲むフランジ状のシール材3を、ストローSの下部Scを該容器

本体2の側壁の開孔2b周りの部分に接着することによって、ストローS全体を支持させ、しかも該開孔2b周りを止水処理させてある。

【0032】図1乃至図3に示すように、本実施例で使用されているストローSは、径の異なる大小2本のストローSa, Sdが1本になるように重ね入れられており、双方のストローSa, Sdの重なっている部分は気密性が保たれて、液漏れしないように構成されており、小径のストローSdを上方に引き出せるように形成されており、しかも小径のストローSdが抜け外れないように大径のストローSaの上端が僅かながら絞られている一方、小径のストローSdの下部も僅かながら膨らませてある。

【0033】この大径のストローSaは、その下部近くの部分がジャバラSbにて形成されており、さらにその下部ScはストローSaと同径の短いストロー部分で形成されており、この大径のストローSaの下部Scが直接飲料容器本体2に固定されている。

【0034】尚、大径のストローSaの下部Scは、飲料容器本体2の開孔2b内に、横方向に向けて突っ込まれて固定されている。しかしながら途中のジャバラSbで上方に曲折されているために、大径のストローSaの上方の大部分は、飲料容器本体2の側壁に沿った向きを維持している。

【0035】このストローSは未使用状態のとき、小径のストローSdの大部分は、未だ大径のストローSa内に収納された状態になっている。この状態でのストローSの上端は、飲料容器本体2より僅かながら低い位置にあり、小径のストローSdの上端部分にはキャップSpが被せられている。しかも図1に示すように、ストローSの上部がフィルムFで飲料容器本体2の側壁の上部に固定されている。このため、例え容器2が倒れてもストローSから飲料Pが溢れ出たりするようなことはない。

【0036】尚、前述においては、ストローSを飲料容器本体2の側壁の開孔2b周りの部分に接着する部材として、防水フィルム製の封止材3を用いているが、これよりも更に強固に接着する構造を示したものが、図6の各図及び図7の各図に示す構造のものである。

【0037】図6の（a）図は、ストロー径大の開孔周りにストローの取付座を形成した飲料容器本体下部の部分斜視図であり、同図の（b）図はその正面断面図である。また、図7の（a）図は飲料容器本体下部にストローを取り付けた状態を示す部分を指す説明図であり、同図の（b）図はその正面断面図である。

【0038】工場内におけるストローSの取付手法を図6から図7へと順を追って説明すると、先ず、図6の各図に示すように、飲料容器本体2の側壁の下部2aにストロー径大の開孔2bを開設し、この開孔2b周りの両面にポリエチレン製の座31を熱圧着して固定する。このようにすると、例え紙製の飲料容器本体2であって

も、開孔2b周りの部分は丈夫になる。

【0039】続いて図7の各図に示すように、このポリエチレン製の座31で形成された開孔31a内に、ストローSの下部Scを突入させ、この突入させたストローS部分の周りを囲む開孔32aとフランジ面32bが形成された取付固定材32を用いて、ストローSの下部Scとナイロン製の座31とを、加熱接着する。このようにしてストローSを飲料容器本体2に固定すると、極めて確りした固定になり、止水効果を格段に高めることができる。

【0040】尚、図1乃至図3において、長さが伸縮する構造のストローSが用いられているが、これは飲み易さを考慮したためであり、伸縮しない構造のストローを用いても構わない。しかしながら、ストローSの上端が飲料容器本体2内の飲料Pの液面よりも高い位置にしなければ、キャップSpを取り外したときに、ストロー口から飲料Pが溢れ出ることになる。しかし、ストローSの上端が飲料容器本体2の上端よりも高く位置すると、箱詰めに不適であり、ストローが折れたりする可能性がある。よってこれらの条件を考慮したストローSの長さにする必要がある。

【0041】以上において説明したストロー付き飲料用容器1Aは、ストローSを飲料容器本体2の側壁の下部2aに突入させて固定したものである。

【0042】これに対し、図8乃至図10に示す第2実施例のストロー付き飲料用容器1Bは、飲料容器本体2の側壁の中央部2eにストローSの大開孔2b1を開設し、この開孔2b1内にストローSを突入させた後、取付固定部材33を用いてストローSを飲料容器本体2に固定したものである。

【0043】この第2実施例で用いられている飲料容器本体2は開孔2b1の開設位置を除けば、前述した第1実施例のストロー付き飲料用容器1Aの飲料容器本体2と同じものである。第2実施例で用いられているストローSも伸縮自在のものが用いられており、このうち大径のストローSaの大部分は飲料容器本体2内下方に向けて位置しており、このストローSaの上端近くの部分が飲料容器本体2外に突出した状態で、取付固定部材33の開孔2b1周りに固定されている。

【0044】大径のストローSaの上端内に一部が差し込まれている小径のストローSdの途中箇所にジャバラSbが形成されており、このジャバラSbがあることによって小径のストローSdは一定長さ以上、大径のストローSa内に入り込まない。そしてこの小径のストローSdの上端部分にキャップSpが被せられている。

【0045】なおこの第2実施例で用いられているストローSについても、前述した第1実施例のストローSの条件を満たす必要がある。

【0046】このようにしてストローSを飲料容器本体2の高さの中央辺りで突入させて固定すると、ストロー

Sが倒れたりするようなことが無くなる。

【0047】尚、本発明に係るストロー付き飲料用容器は、前述した第1及び第2の実施例のストロー付き飲料用容器1A, 1Bで用いられている形状や大きさの飲料容器本体2に限られない。

【0048】例えば、図11に示す第3実施例に示すストロー付き飲料用容器1Cに示すように、いわゆる牛乳パックと呼ばれているような形状の飲料容器本体21の側壁の下部21bに、前述した第1と同様の手法を用いてストローSの下部を突入・固定したものでも良い。

尚、ストローS2は伸縮しない構造のものが用いられているが伸縮するものであっても良く、また、ストローS2の各部の符号は前述した第1及び第2の実施例に対応させてある。図11においてF1はストローS2を飲料容器本体21ごと覆うフィルム包装材である。

【0049】また、図12に示す第4実施例に示すストロー付き飲料用容器1Dに示すように、コップ形状の飲料容器本体22の下部22bに、前述した第1と同様の手法を用いてストローS3の下部を突入・固定したものでも良い。ストローS2の各部の符号は前述した第1及び第2の実施例に対応させてある。

【0050】また、図示していないが、図11及び図12に示す第3及び第4の実施例のストロー付き飲料用容器1C, 1Dにおいて、ストローSの取付位置を図8乃至図10に示す第2実施例のように飲料容器本体の上下中央辺り、或いはそれより多少上方に設けても良いのである。

【0051】

【発明の効果】以上説明した本発明に係るストロー付き飲料用容器によれば、お茶、コーヒー、牛乳、ジュース、ミネラルウォーター等の飲料が充填される耐水性の紙又は合成樹脂で形成された飲料容器本体の側壁内に、上下方向に姿勢させたストローの基端が連通或いは突入して支持されており、しかもこのストローの連通・突入箇所の周りが止水処理させたものを製造したことによって、この飲料容器本体内に飲料を充填した飲料製品を消費者が購入後、ストローの開放先端部のキャップを外したり、被覆フィルムを剥がしたりするだけで、容器内の飲料を飲むことが出来たのである。

【0052】しかも、従来のようにストローを容器の開孔内に突入させると同時に、容器を指先で押え過ぎてストローから飲料が吹き出したり溢れ出したりするような事態を無くすことが出来たのである。

【0053】しかも、飲料を途中まで飲み終えたときに、ストローのキャップを再び被せると、衛生的に保存させることが出来、しかも倒し溢れも防ぐことが出来たのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の第1実施例に係るストロー付き飲料用容器の開封前の状態を示した斜視図である。

【図2】図2は、同じく開封後の状態を示した斜視図である。

【図3】図3は、同じく開封後の状態を示した正面断面図である。

【図4】図4は、ストローの取付手法と取付構造の過程を示す斜視図である。

【図5】図5は、ストローの取付手法と取付構造を示した斜視図である。

【図6】図6において、(a)図は、ストロー径大の開孔周りにストローの取付座を形成した飲料容器本体下部の部分斜視図である。図6において、(b)図は、その側面断面図である。

【図7】図7において、(a)図は、飲料容器本体下部にストローを取り付けた状態を示した部分指図である。図7において、(b)図は、その側面断面図である。

【図8】図8は、本発明の第2実施例に係るストロー付き飲料用容器の開封前の状態を示す斜視図である。

【図9】図9は、同じく開封後の状態を示す斜視図であ

る。

【図10】図10は、同じく開封後の状態を示す正面断面図である。

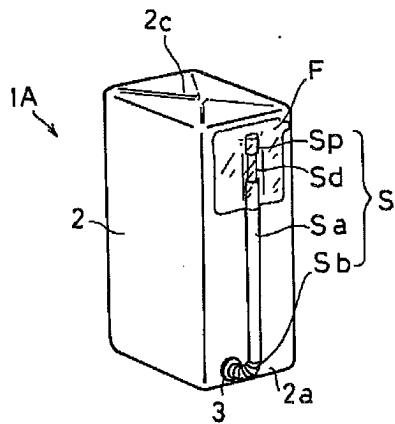
【図11】図11は、本発明の第3実施例に係るストロー付き飲料用容器の開封前の状態を示す斜視図である。

【図12】図12は、本発明の第4実施例に係るストロー付き飲料用容器の開封前の状態を示す斜視図である。

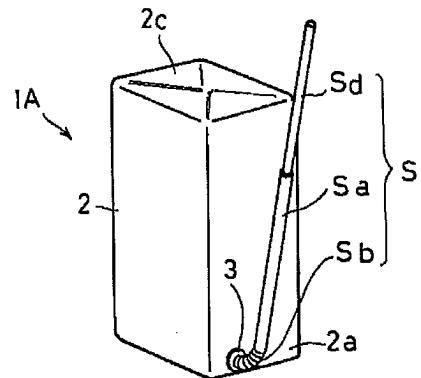
【符号の説明】

1 A	ストロー付き飲料用容器
1 B	ストロー付き飲料用容器
1 C	ストロー付き飲料用容器
1 D	ストロー付き飲料用容器
2	飲料容器本体
2 a	側壁の下部
2 b	開孔
2 e	側壁の中央部
3	封止材
S	ストロー
P	飲料

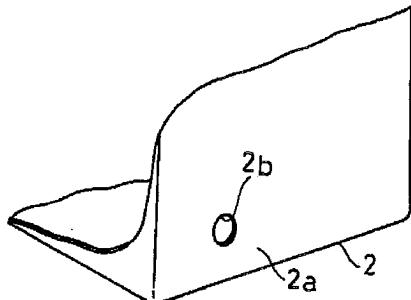
【図1】



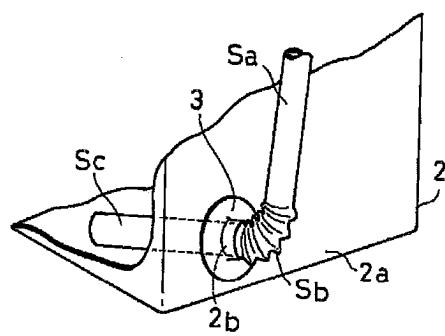
【図2】



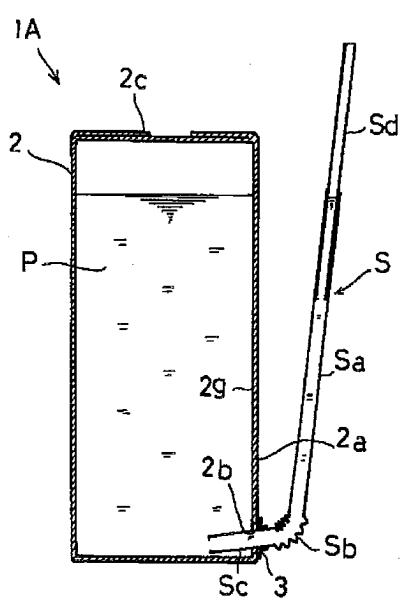
【図4】



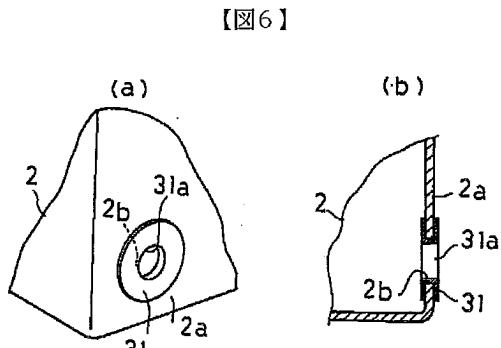
【図5】



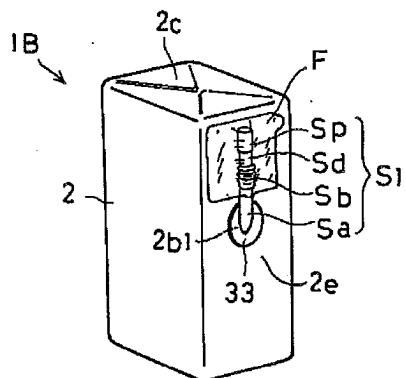
【図3】



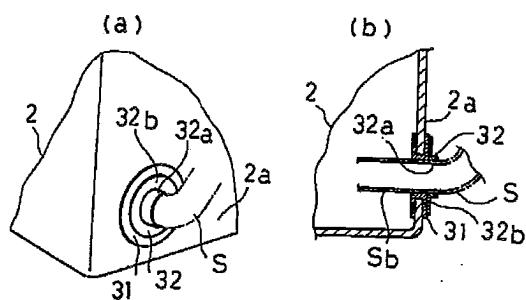
〔図7〕



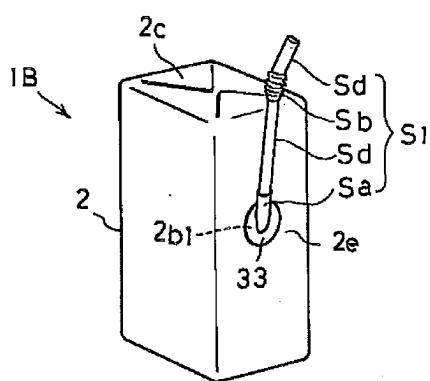
【図8】



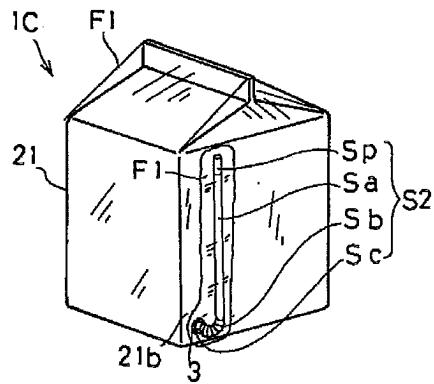
【図10】



[圖9]



【図11】



【図12】

